

和語・漢語・外来語の指導

河内 昭浩

群馬大学教育学部国語教育講座

(2015年9月30日受理)

Guidance of “Wago・Kango・Gairaigo”

Akihiro KAWAUCHI

Department of Japanese Education, Faculty of Education, Gunma University

(Accepted September 30th, 2015)

1. 研究課題

筆者はこの数年、コーパスを活用した漢字・語彙指導研究を続けている⁽¹⁾。

コーパスとは、研究用の情報の付与された言語のデータベースである。活用してきたコーパスは、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」と「教科書コーパス」である。「現代日本語書き言葉均衡コーパス」は、国立国語研究所を中心とした、文部科学省特定領域研究「日本語コーパス」(2006～2011, 代表; 前川喜久雄氏) 事業によって構築された。書籍・新聞・雑誌から web 上の言語まで、幅広いジャンルの現代日本語の書き言葉が集められた、大規模で代表性を有するコーパスである。また「教科書コーパス」は、「日本語コーパス」内のプロジェクトであった「言語政策班」(代表; 田中牧郎氏) によって作成された。全教科・全校種の、2005年度に使用された教科書、全144冊の日本語部分が収められた全文コーパスである。「教科書コーパス」のデータの一部は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」に組み込まれている。

筆者は両コーパス作成の一端に関わりつつ、コーパスという客観的な言語資料の、国語教育への活用研究並びに活用実践を行ってきた。特に児童・生徒が学習すべき漢字・語彙の具体化を模索してきた。

ただこれまでは、コーパスそのものの説明や、コー

パスから漢字や語彙を抽出する過程の説明に論の多くを割き、実際の漢字・語彙については、コーパス・データの一部を紹介するにとどまることが多かった。国語教育におけるコーパスの認知度が高まった今、より具体的に、指導すべき漢字・語彙を提示する時が来ている。

また近年、国語科の学習語彙についての研究が盛んになってきている。東京学芸大学国語教育学会他(2013)『小学校 子どもが生きる国語科学習用語』(東洋館出版社)には、「子どもが国語科の学習で獲得し、使用していく専門用語(5頁)」として、「あらすじ」「暗唱」など140語の「国語科学習用語」が挙げられている。全教科における言語活動の充実が求められている中で、言語活動を行う上で必要な言葉そのものは何かを明確にしていく必要がある。今後こうした国語科の学習語彙の研究と実践がより進展していくと予想される。

また一方、すでに国語科以外の教科では、学習語が学習指導要領に明示されているものもある。例えば『中学校学習指導要領数学』第1学年「2内容、A数と式」には、指導すべき「用語・記号」が、次のように学年の指導内容ごとに明示されている。

自然数 符号 絶対値 項 … (以下省略)

また『小学校学習指導要領社会』第5・6学年の「内容の取扱い」には、「卑弥呼、聖徳太子」等の、指導すべき人物名が列記されている。

本研究は、語彙指導、特に中学校国語科の指導事項である「和語・漢語・外来語」において、扱うべき語彙の選定とその指導法について述べるものである。『中学校学習指導要領国語』第3学年[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]、「言葉の特徴やきまりに関する事項」には次のようにある。

(イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。(傍線は引用者による。以下同様)

ここに「語彙を豊かにする」とあるが、どのような「和語・漢語・外来語」を、どれほど身に付けば「豊かに」なるのかは明らかにされていない。先述の東京学芸大学国語教育学会他(2013)のように、国語科全体、言語活動全体のための語彙のみでなく、「和語・漢語・外来語」のような、個別の学習のための語彙も選定していく必要がある。そしていずれ他教科のように、学習指導要領に例示できればと考えている。

こうした問題意識のもと、本研究では「和語・漢語・外来語」指導のための、具体的な語彙の選定を試みる。

2. 教科書調査①「和語・漢語・外来語」単元の語彙

まずは現行5社の国語科教科書の単元で取り上げられている、「和語・漢語・外来語」並びに混種語の語彙の実態を明らかにする。

現行5社の中学校第3学年国語科教科書の、「和語・漢語・外来語」単元において、語種の例として示されている語彙をすべて調査した。5社合わせて、異なり語の総数は245である。内訳は、和語76、漢語78、外来語78、混種語13であった。以下に一覧を掲げる。

表1 「和語・漢語・外来語」単元の語彙一覧

和語(76語)：明かり、朝、足跡、新しい、後、或る、歩く、行く、挑む、いる、打ち合わせ、美しい、写し、海、大きい、大きな、大事、起きる、贈り物、遅れ、お知らせ、踊り、泳ぎ、下ろす、重なる、川、瓦、考え、切り替え、くさはら、暮らし、企て、桑畑、けれども、言葉、鮭、下げる、侍、幸せ、静か、白い、少し、寿司、相撲、する、滝壺、楽しい、使う、使える、て、手引き、取り消し、など、に、の、は、始める、花、薔薇、はらわた、 ^{ひとけ} 人気、古里、触れる、星、 ^{まきば} 牧場、ます、周り、道、見る、もし、もめごと、優しい、宿屋、湯飲み、宵、私
漢語(78語)：安打、移行、遺伝子、映画、演芸、会議、開始、解約、過失、果実、学校、果物、企業、菊、巨大、言語、幸福、故郷、後刻、五臓六腑、最近、債権、最新、斬新、時間、時間差、自然、視聴、周囲、出張、襦袢、使用、所有者、新規、新式、新鮮、新任、水泳、生活、精神的、説明書、世話、先生、扇風機、草原、足跡、訴訟、体育、大根、大事、団体、茶碗、中継、抽象、挑戦、重複、庭園、転換、電子、道路、人気、年俸、百貨店、表現、便乗、複写、舞踏、紛争、返事、便利、報道、牧場、歩行、毎日、漫画、有効、旅館、録画
外来語(78語)：アイディア、アルコール、アルバイト、イクラ、インタビュー、インフォームド・コンセント、インフラ、オーケー、オートバイ、オーナー、オピニオン、オペラ、オルゴール、ガゼ、カード、ガイドライン、ガス、カステラ、ガソリンスタンド、カップ、カップ、ガラス、カルタ、カルテ、キャンセル、ケア、コーヒー、コップ、コピー、コンセンサス、ザイル、シフト、シャンパン、シュミレーション、シンプル、スイミング、ズボン、セーフティーネット、タイムラグ、タバコ、ダンス、チャレンジ、デッサン、デパート、テレビ、ドライブ、ドラマ、ナイター、ニュース、ノーマライゼーション、バーチャル、バイオテクノロジー、パソコン、ハッピー、バリアフリー、パン、ピアノ、ピザ、ビッグ、ヒット、プラン、フルーツ、プレゼント、ペーターベン、ポジティブ、ボタン、ホテル、メモ、メンタル、ユニバーサル・デザイン、ユビキタス、ライフ、ライフスタイル、ランチ、リアルタイム、リモコン、レジャー、ワクチン

混種語(13語)：赤鉛筆、いちごケーキ、卸売り業、ガラス窓、自動ドア、食パン、花火大会、パン食、古タイヤ、古本、本箱、窓ガラス、レポート用紙

驚くことに各社に共通する語がほとんどなかった。245語中、1社単独で掲載されている語が232語であった。複数の教科書に掲載されている語はわずかに以下の13語である。

- ・3社掲載：幸福(漢)、ハッピー(外)
- ・2社掲載：考え、幸せ、は(以上；和)、学校、菊、複写(以上；漢)、イクラ、ガラス、カルタ、キャンセル、メモ(以上；外)

また難易度の幅が広いことも分かった。「新しい」(和)「毎日」(漢)「メモ」(外)といった基本的な、平易な語もあれば、「滝壺」(和)「襦袢」(漢)「ユビキタス」(外)といった難解な語もある。

各社教科書の単元本文を読むと、単元のねらいを次の3点に整理できる。

- ①相手や場面に応じて使い分ける
- ②日本語の語彙の豊かさをを知る
- ③日本語の成立の由来を知る

上記のようなねらいを達成することを目的として、語彙が選定されている。例えばまず「湯飲み・茶碗・カップ」のように、同様の意味の、異なる語種が並べて記されている。そしてそれぞれの語の語種の概要、由来の説明が施されている。さらに、場に応じて語を使い分ける必要性や、日本語の語彙の豊かさが説かれている。こうした単元で、語種に対する理解を深めることはできるだろう。しかし現在教科書に示されている語彙で、中学第3学年段階において使い分けるべき語は何か、理解すべき、使用すべき語は何かを知り、活用できるかは疑問である。例えば中学3年生が、先に示した「新しい」といった語の使用法を学ぶ必要はない。また「襦袢」という語が、社会生活を送る上で、他の語と比べて優先的に学ぶべき語であるとは思えない。

国語科の授業で語彙のみを取り上げる機会は数少ない。この「和語・漢語・外来語」単元の機会にこそ、学習すべき語を厳選して学ばせたい。そのために、他教科の学習や社会生活に必要な語を選定し、指導していく必要がある。

また、他教科や社会に必要な性の高い語のみを選定するのではなく、和語・漢語・外来語の違いや、日本語の豊かさを知る契機となる語の選定も行いたい。例えば和語の中には、時季を表す言葉などに、現在は使用されなくなった語も多い。そうした語を学ばせることで、日本語の豊かさを理解させることができる。また漢語については、主に作文の機会に必要な語を学ばせることで、漢語の必要性を理解させることができるだろう。

3. 教科書調査②中学校全教科の教科書の語彙

次に、現行の中学校全教科の教科書の語彙調査を行った。今回新たに、科研費25381226の援助を受け、2014年度使用の全教科の中学校教科書のデータをコーパス化した。文部科学省「2014年度教科書採択状況」をもとに、各教科の採択率最上位の教科書を、各学年1冊ずつ選定し、総数26冊の教科書を対象とした。26冊の内訳は以下の通りである。

国語4(書写を含む)、社会3、数学3、理科3、芸術7(音楽・器楽・美術)、保健体育1、技術・家庭2、外国語(英語)3

上記の全教科の教科書の日本語部分に対して形態素解析を行い、語彙表にまとめた。なおこの語彙表の作成には、国立国語研究所の近藤明日子氏に協力を仰いだ。

抽出できた和語・漢語・外来語・混種語の総数は23,118語である。内訳は和語8,616語(37.3%)、漢語11,162語(48.3%)、外来語2,572語(11.1%)、混種語768語(3.3%)であった。なお人名や地名は、解析に用いた辞書「UniDic」⁽²⁾において固有語として認定されるためここには含まれていない。ちなみ

に2005年度使用教科書のデータ（「教科書コーパス」）では、和語・漢語・外来語・混種語の総数は20,180語であった。また内訳は、和語7,511語（37.2%）、漢語9,797語（48.5%）、外来語2,212語（11.0%）、混種語660語（3.2%）であった。語種の比率は、2014年度使用と2005年度使用ともほぼ同じであった。

2014年度使用教科書の和語・漢語・外来語の度数上位50語、並びに混種語の上位25語は以下の表2の通りである。なお、付属語（助詞・助動詞）、数詞（1, 2など）、接尾辞（～的など）は表に含めていない。また、解析で用いた辞書「UniDic」は、短単位という小さな語の単位を採用している。従って、例えば「いちごケーキ」といった語は、「いちご」と「ケーキ」の別々の語として認定される。混種語としてここに挙げるのは、重箱読み（漢語+和語）、湯桶読み（和語+漢語）の熟語のみである。

表2 全教科教科書「和語・漢語・外来語」度数上位50語・「混種語」度数上位25語

和語(50語)：事、物、時、ため、また、人、中、次、これ、それ、水、上、言葉、それぞれ、さまざま、何、場合、どう、人々、力、形、私、ところ、光、前、音、数、右、国、他、多く、下、いろいろ、しかし、もと、値、今、体、よく、頃、間、豆、動き、違い、子供、目、日、仕事、色、後
漢語(50語)：図、生活、自分、例、変化、県、世界、地域、利用、式、必要、関係、方法、社会、情報、市、環境、学習、表、地方、量、地球、物質、工夫、技術、問題、文、作品、部分、語、表現、分化、時代、実験、学校、資料、自然、説明、漢字、中心、運動、電流、電気、特徴、結果、様子、現在、生物、材料、発生
外来語(50語)：エネルギー、グラフ、テーマ、スポーツ、イオン、ナトリウム、コンピュータ、グループ、インターネット、デザイン、モデル、ガス、メモ、イメージ、リズム、プラスチック、カード、ゴム、レポート、テレビ、ガラス、ボトル、ペット、スケッチ、アクセス、データ、メディア、コイル、レンズ、ノート、ボール、リサイクル、テープ、サービス、センター、ルール、カメラ、

アルカリ、ペン、システム、インタビュー、クラス、ネットワーク、バス、プレート、プログラム、ポスター、アルミニウム、マーク、パート

混種語(25語)：場所、気持ち、役割、場面、特に、手順、感じ、身分、罨書き、毎年、稲作、地元、値段、じゃが芋、駄目、決して、玉蜀黍、番組、具合、株式、職場、絵の具、台所、荷物、両手

次に、具体的な語彙の選定作業のために、教科書の語彙表と「学校・社会対照語彙表」とを関連付けた。「学校・社会対照語彙表」は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」並びに「教科書コーパス」の情報を結合させた語彙表である。特に本語彙表には、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」のサブコーパス（図書館書籍・出版書籍・雑誌・新聞・Yahoo!知恵袋・Yahoo!ブログ）別の、「語彙レベル」が付与されている。「語彙レベル」(a～e)は、各サブコーパスにおける語彙の累積使用率を基に設定したものである。出現頻度が最も高い語の集合はレベルa群、最も低い語の集合はレベルe群となる。

田中牧郎(2011)によれば、web上の書き言葉(Yahoo!知恵袋)の語彙レベルを見ることで、語彙の日常度が図れるという。また、図書館書籍の語彙レベルによって、「現代語彙の一般的ありよう」(84頁)を知ることができるという。田中氏は、図書館書籍の語彙レベルの高い語の中から、web上の書き言葉(Yahoo!知恵袋)の語彙レベルの高い語彙を除外すれば、「日常生活の中では身に付きにくい学習すべき重要語彙を特定するのに役立つ」(85頁)と述べている。

次節において、教科書の頻度並びに語彙レベルを用いて選定した和語・漢語・外来語を提示する。

4. 「和語・漢語・外来語」の選定

(1) 「単元のねらい」の精査

改めて、教科書の「和語・漢語・外来語」単元のねらいを掲げる。

- ①相手や場面に応じて使い分ける
- ②日本語の語彙の豊かさを知る

③日本語の成立の由来を知る

①, ②は学習指導要領の記述（「和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること」）に対応している。しかし③については、小学校国語科の学習と内容が重複している。小学校第5・6学年の「語句に関する事項」には「(エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。」とある。この項に関して、『小学校学習指導要領解説国語編』には次のようにある。

語句の由来に関しては、ウの「(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。」に関する事項とも関連させて、語源を調べたり、和語、漢語、外来語などの区別について関心をもったりできるようにすることが効果的である。 (95頁)

上記のように、小学校高学年において、語句の由来に関して、和語・漢語・外来語の学習をすることが促されている。そして実際に小学校第5学年の教科書に「和語・漢語・外来語」の単元が存在している⁽³⁾。

前々節に示した中学校「和語・漢語・外来語」単元の語彙一覧のうち、平易な語、例えば海、先生、コップなどは、本来小学校の「語句に関する事項」の指導で扱うべきである。また同時に、語の由来を知る学習は既に小学校で行われていて、中学校「和語・漢語・外来語」単元のねらいにふさわしくない。

そこで本研究では、中学校「和語・漢語・外来語」単元のねらいとして、「③日本語の成立の由来を知る」ではなく、「③日本語の広がりを知る」といった項を立てることにする。そしてそのねらいのもとに中心的に学習する語種を外来語としたい。それは以下に示す、①, ②のねらいの検証と関連する。

「①相手や場面に応じて使い分ける」、「②日本語の語彙の豊かさを知る」とも、和語・漢語・外来語の、どの語種の表現・理解にも必要なねらいである。例えば①の場合、年少者に表現することを想定した、

漢語や外来語を和語に置き換える言語活動なども考えられる。しかしすべてのねらいに適合した、すべての語種に変換可能な語を取り上げようとした結果、前々節の一覧表のように、難易度や学習の必要度の幅の大きい、乱雑な語の集まりとなってしまっている。

「和語・漢語・外来語」単元は、数少ない語彙の取り立て単元である。語彙の学習として有意義な単元にしなければならない。そのために、ねらいごとに語種を限定し、かつ学習の必要度の高い語を限定的に指導したいと考える。具体的には、「①相手や場面に応じて使い分ける」ための漢語を、「②日本語の豊かさを知る」ための和語を厳選して、学習指導の場に乗せたい。

以上、本項における「単元のねらい」の精査をまとめると以下のようなになる。次項において、具体的な語彙の選定を行う。

- ①相手や場面に応じて使い分ける「漢語」
- ②日本語の語彙の豊かさを知る「和語」
- ③日本語の広がりを知る「外来語」

(2) 相手や場面に応じて使い分ける「漢語」の選定と指導

前節で一部を示した、2014年度使用の中学校全教科書の語彙の中から、相手や場面に応じて使い分けるというねらいにふさわしい「漢語」を選定していく。なお、「和語」、「外来語」も同データから抽出する。

すでに記したように、対象となる漢語は11,162語である。この中から指導すべき漢語を限定するために、「学習語」という観点を立てる。

学習語の定義は種々あるが、筆者は現在、バトラー後藤裕子(2011)、田中牧郎(2011)双方の考えに沿って研究を進めている。

バトラー後藤裕子(2011)では、学習語を「教科書など学習場面で出てくる語であるが、分野によって日常生活とは違う意味に特化して使われたり、特化しないで使われたりする語」(66頁)であると定義している。さらに次のように述べている。

専門語は教科書の中で定義が説明されていたり、授業の中でも教師が、概念をきちんと説明したりすることが多い。意外に盲点なのは、専門語ではないために、教科書や授業で十分に説明してもらえないにもかかわらず、教科の内容理解に不可欠で、かつ日常的にはあまり使われないような語彙である。このような語彙は、途中で編入してきたような帰国生や日本語学習児童生徒には習得が難しいと予想される。しかし、習得しておかないと、教科学習に支障をきたす可能性が大きくなる。(122 頁)

バトラー後藤氏は、日本語学習児童生徒を念頭に学習語彙の指導の必要性を述べているが、日本語を母語とする児童生徒にとっても同様のことが言える。

このバトラー後藤氏の考えに依拠して、語彙表から漢語を選定する。そのために、先述した田中牧郎(2011)の説に基づき、図書館書籍の語彙レベルの

高い語の中から、Yahoo!知恵袋の語彙レベルの高い語彙を除くといった作業を行う。

学習語として選定する漢語の定義並びに具体的な選定方法をまとめると以下の通りである。

[定義] 教科書で出現数が多くかつ一般社会での重要度が高く、子どもたちが日常的には使用する機会が少なく指導が必要と考えられる漢語
[選定方法] 教科書での出現数が 10 以上で、図書館書籍の語彙レベルが高く (a, b, c), 知恵袋の語彙レベルが低い (d, e, 空白) 語を選定

上記の定義, 選定方法で, 11,162 語の漢語から 778 語を抽出した。その 778 語から, 教科書中の用例などをもとに主観で判断し, 指導すべき漢語 25 語として選定した。表 3 の通りである⁽⁴⁾。25 語中, 通し番号 1~20 までの語はすべての教科で, 21~25 は特に国語科での学習に必要な語として選定した。

これらの漢語については, 日常用いる平易な和語

表 3 指導すべき漢語 25 語

通番	漢語	全体	国語	数学	理科	社会	外語	技家	芸術	保体	図書	出版	雑誌	新聞	智恵	ブログ
1	対話	199	5	0	0	3	185	1	5	0	a	b	b	a	e	c
2	分布	141	2	38	36	62	0	1	0	2	a	a	b	c	d	b
3	考察	128	5	1	105	16	0	1	0	0	a	a	c	c	e	c
4	着目	125	88	16	4	17	0	0	0	0	c	b	b	b	e	d
5	構想	99	1	0	0	6	0	57	35	0	a	a	a	a	d	b
6	情景	86	57	0	0	0	0	0	29	0	b	b	b	c		c
7	保全	73	0	0	12	32	0	26	0	3	a	a	d	a	d	c
8	仮説	71	18	0	0	53	0	0	0	0	b	b	d	d	d	c
9	調和	50	27	0	2	6	0	7	6	2	b	b	b	b	e	c
10	共生	42	4	0	4	24	0	6	4	0	b	b	b	b	e	c
11	景観	42	0	0	5	32	0	0	5	0	b	b	d	b	e	c
12	列強	41	0	0	0	41	0	0	0	0	b	c	d	c	e	e
13	焦点	36	1	2	31	2	0	0	0	0	a	a	a	a	e	b
14	探求	35	3	0	9	3	0	2	0	18	b	c	e	d		e
15	展望	34	1	30	0	2	0	0	1	0	b	b	a	b	d	a
16	抽出	23	0	17	2	0	0	4	0	0	b	b	b	b	d	c
17	採択	23	0	0	0	22	0	1	0	0	b	b	d	a		d
18	指針	20	0	0	13	1	0	5	0	1	b	b	c	a	e	d
19	伝承	19	2	0	0	6	0	10	1	0	b	b	c	c	e	c
20	振興	18	0	0	0	10	0	1	2	5	b	b	b	a	d	b
21	筆者	118	118	0	0	0	0	0	0	0	a	s	b	b	e	c
22	出典	74	70	0	0	2	0	2	0	0	b	b	e		d	b
23	批評	40	40	0	0	0	0	0	0	0	b	b	c	c	d	c
24	討論	25	20	0	0	5	0	0	0	0	b	b	e	a	d	c
25	季語	20	17	0	0	1	2	0	0	0	c	e	b		e	c

との違いを考えさせ、「書くこと」の場面につなげる指導が効果的である。例えば次のように和語と対比させて提示するとよい。なおここで示す和語は学習語としての提示ではない。

- ・対話 (する) — 話す ・分布 (する) — 広がる
- ・考察 (する) — 考える ・着目 (する) — 見る

生徒は作文の際、文末表現に悩むことが多い。こうした漢語の学習が表現力の向上につながると考えられる。

(3) 日本語の豊かさを知る「和語」の選定と指導

選定対象となる和語は8,616語である。漢語においては、作文指導に有効で一般社会での使用頻度も高い語を選定した。和語においては、一般社会での使用頻度は低くとも、日本語として継承したいと考えられる語を選定することにする。気象や感情に関する和語や、伝統的な文化に関する和語をこの機会

に指導できるとよい。

選定する和語の定義並びに具体的な選定方法をまとめると以下の通りである。

[定義] 気象、感情、伝統的な文化などに関する語で、一般社会で使用する機会が少なくなっているが、日本語として継承したいと考えられる、教科書に出現する語

[選定方法] 図書館書籍の語彙レベル、知恵袋の語彙レベルがともに低く(d, e, 空白)、教科書での出現数が10以下の語を選定

上記の定義、選定方法で、8,616語の和語から3,285語を抽出した。その3,285語から、教科書中の用例などをもとに主観で判断し、指導すべき和語25語として選定した。表4の通りである。

これらの和語のうち、気象に関する語(「五月雨」など)や伝統的な文化に関する語(「山車」など)は、理解語としての定着が望まれる。一方、感情に関する

表4 指導すべき和語25語

通番	和語	全体	国語	数学	理科	社会	外語	技家	芸術	保体	図書	出版	雑誌	新聞	智恵	ブログ
1	山車	10	0	0	0	8	0	1	0	1	e	e	e	d	e	c
2	伊呂波歌	10	10	0	0	0	0	0	0	0					e	e
3	棚田	8	0	0	0	5	0	2	1	0	e	e	e	c	e	d
4	夕立	8	5	0	1	2	0	0	0	0	d	d			e	c
5	羽衣	8	1	0	0	1	0	0	6	0	d	d	e		e	e
6	五月雨	7	7	0	0	0	0	0	0	0	e	d			e	e
7	苗木	6	3	0	0	2	0	1	0	0	e	e	d		e	e
8	春雨	5	3	0	0	0	0	0	2	0	d	c	c	d	c	c
9	海風	5	1	0	3	0	0	0	1	0	d	e	d		e	e
10	秋風	5	5	0	0	0	0	0	0	0	c	c	d	e		d
11	土筆	4	0	0	3	1	0	0	0	0	d	d	d	c	e	c
12	機織り	4	0	0	3	0	0	0	1	0	d	e	c			e
13	山背	4	0	0	2	2	0	0	0	0	e				e	
14	寄り合い	4	0	0	0	3	0	1	0	0	d	d	e	d		e
15	木漏れ日	3	0	0	0	0	0	0	3	0	d	d	c			d
16	葉桜	3	2	0	0	1	0	0	0	0	e				e	d
17	にわか雨	3	0	0	3	0	0	0	0	0	e	e			e	d
18	そよ風	3	2	0	0	0	0	0	1	0	d	d	e		e	d
19	小春	2	2	0	0	0	0	0	0	0	d	d			e	c
20	はかない	7	7	0	0	0	0	0	0	0	e	e				e
21	せわしい	4	4	0	0	0	0	0	0	0	d	e				e
22	晴れがましい	4	3	0	0	1	0	0	0	0	e	e		d		e
23	こそばゆい	3	3	0	0	0	0	0	0	0	e	e				e
24	うとい	3	1	0	2	0	0	0	0	0	d	c	d		d	c
25	がむしゃら	3	2	0	0	0	0	0	1	0	d	d	c	d	e	d

表5 「話す・聞く」「書く」「読む」の類義語

通番	「話聞書読」用語	全体	国語	数学	理科	社会	外語	技家	芸術	保体	図書	出版	雑誌	新聞	智恵	ブログ
1	話し合う	404	88	63	36	98	9	76	30	4	d	d			e	e
2	話し掛ける	14	5	0	0	1	5	2	1	0	a	b	b	c	b	b
3	聞き比べる	6	0	0	0	0	0	0	6	0	e	e	e		e	e
4	聞き取る	99	31	0	0	30	34	0	4	0	b	c	c	d	d	c
5	読み味わう	30	30	0	0	0	0	0	0	0	e					
6	読み聞かせ	12	0	0	0	0	0	12	0	0	d	d	c		e	e
7	読み取る	164	68	5	25	53	0	12	1	0	b	b	b	c	c	c
8	読み合う	28	27	0	0	1	0	0	0	0	e	e	d			e
9	書き留める	16	15	0	0	0	0	0	0	1	e	d	e	d		e
10	書き表わす	25	18	0	0	1	0	3	3	0					e	
11	書き入れる	70	0	57	2	5	0	0	6	0	d	d	d	e	e	e
12	書き替える	12	8	0	1	1	1	1	0	0	c	b	d	e	c	d
13	書き出す	48	18	0	0	24	1	3	2	0	c	c	d		d	d
14	書き取る	11	0	0	0	0	11	0	0	0	e	e		d		e
15	書き込む	35	8	0	7	15	0	3	2	0	e	e	c	e	d	d
16	書き下ろし	17	17	0	0	0	0	0	0	0	e	e	d	d	e	e

表6 指導すべき外来語 25 語

通番	外来語	全体	国語	数学	理科	社会	外語	技家	芸術	保体	図書	出版	雑誌	新聞	智恵	ブログ
1	スキル	49	0	0	0	49	0	0	0	0	c	b	b	e	b	b
2	グローバル	45	1	0	0	43	0	1	0	0	b	a	a	c	c	c
3	バイオマス	30	0	0	21	3	0	6	0	0	c	d		e	e	e
4	エコ	26	1	0	2	11	0	12	0	0	c	c	b	b	d	a
5	コミュニティ	20	20	0	0	0	0	0	0	0	b	a	c	b	e	b
6	コラム	20	8	0	0	0	0	1	0	11	b	a	a	c	d	b
7	ポートフォリオ	19	19	0	0	0	0	0	0	0	c	b	c	e	e	e
8	アレンジ	19	0	0	0	0	0	0	19	0	b	c	a	b	c	b
9	フローチャート	17	1	0	0	0	0	16	0	0	e	d				e
10	モラル	17	1	0	0	0	0	16	0	0	b	c	c	c	c	c
11	サイト	16	3	0	0	1	1	7	0	4	b	a	a	b	a	a
12	アピール	15	13	0	0	2	0	0	0	0	b	b	a	a	b	b
13	コスト	14	0	0	1	3	0	10	0	0	a	a	a	a	b	b
14	フィールド	13	8	0	0	3	0	1	0	1	b	a	a	b	c	b
15	リユース	12	1	0	5	1	0	4	0	1		e	d		e	e
16	ハイブリッド	12	0	0	4	1	0	7	0	0	e	c	b	c	d	c
17	レベル	11	1	1	2	2	0	4	0	1	a	a	a	a	a	a
18	テロ	11	0	0	0	11	0	0	0	0	b	a	a	a	b	b
19	ケア	10	8	0	0	1	1	0	0	0	b	a	a	a	b	b
20	エコロジー	10	0	0	0	2	0	8	0	0	c	c	d	c		e
21	メディア	110	42	0	1	34	0	26	2	5	a	a	a	a	a	a
22	プレゼンテーション	37	14	0	0	12	0	9	2	0	c	c	c	d	e	e
23	ディスカッション	19	14	0	0	5	0	0	0	0	c	c		c	e	d
24	エピソード	19	13	0	0	0	1	1	4	0	b	b	a	b	c	b
25	ノンフィクション	17	17	0	0	0	0	0	0	0	c	c	c	c	e	e

る語（「はかない」など）は、随筆などの表現の場で用いることができるように指導していきたい。

また別に、教科書には「話す・聞く」「書く」「読む」に関する類義語が多い(表5)。こうした語の学習を、和語の指導の一環に取り入れたい。「話す・聞く」「書く」等の類義語の学習は、「和語・漢語・外来語」指導の大きなねらいである、「相手や場面に応じて使い分ける」力をつけさせる上で、よい手立てとなるはずである。

(4) 日本語の広がりを知る「外来語」の選定と指導

最後に外来語の選定を行う。対象となる語は2,212語である。

先述したように、コップなどの、すでに日本語として定着している外来語は指導の対象としない。新しい外来語の中で、日本語に定着しつつある、これから社会生活を送る生徒にとって習熟が必要と考えられる語を選定していく。

語の新しさを知るうえで、外来語の選定においては、二つの教科書のデータを参照することにする。

「1. 研究課題」で触れた「教科書コーパス」には、2005年度の教科書の書き言葉が収められている。一方、今回主に使用している教科書データは2014年度のものである。前者での頻度が低く後者で頻度が高い外来語の中から指導すべき語彙を選定していく。

選定する外来語の定義並びに具体的な選定方法をまとめると以下の通りである。また選定した外来語を表6にまとめた。

[定義] 日本語として定着しつつあり、社会で使用が進んでいて学習の必要があると考えられる、教科書に出現する外来語

[選定方法] 出現数が、2005年度使用の中学校教科書において出現数5以下で、かつ2014年度使用の中学校教科書で出現数10以上の外来語

上記の定義、選定方法で、2,212語の外来語から136語を抽出した。その136語から、教科書中の用例などをもとに主観で判断し、指導すべき外来語25語

として選定した。

「バイオマス」「ポートフォリオ」などは、2005年度の教科書にほとんど見ることのできない、新しい外来語である。他教科の学習のためにも、生徒に十分な意味理解をさせる必要がある。

また、選定した外来語の中には、同様の意味の和語や漢語などとの違いについて考えさせ、語感を磨かせる学習に効果的な語が多い。

- ・スキルー技（和）ー技術（漢）
- ・レベルー目安（和）ー基準（漢）
- ・モラルー道徳（混）　・ケアー世話（混）

現在の教科書単元の内容の多くは、こうした同様の意味の異なる語種の学習である。外来語を起点として他の語種との違いについて考えさせていきたい。

5. 今後の課題

本研究は、中学第3学年「和語・漢語・外来語」単元のねらいを明らかにし、ねらいに応じた語彙の選定を試みたものである。こうした語彙の選定研究は、単に教科書中における語彙の選定を目指すものではない。『学習指導要領国語』の中に、指導すべき語彙としての明示を目指すものである。今後語彙をさらに細かく検討するとともに、語種ごとに、より具体的な学習指導の方法を提案していきたい。

また「和語・漢語・外来語」にとどまらず、同じく中学校の指導事項である「慣用句・四字熟語」（中3）、「類義語・対義語・同音異義語」（中2）の語彙についても、同様の方法で選定をしていく。加えて、こうした語彙の選定・指導の研究と、従来から行っている漢字の選定・指導の研究を関連付けて、中学校において指導すべき漢字・語彙についての総括的な提言をも行う予定である。

中学校における学習語彙の研究の先達としては、阪本一郎（1958）や児童言語研究会（1962）などがある。阪本（1958）では日常生活に必要な語として中学校語彙10,000語が選定されている。児言研

(1962) では主に中学校国語科で学習する語として1,131語が選定されている。

筆者の研究では、日常生活や国語科での学習に加え、他教科の学習に資することを目的に加えて語彙選定を行っている。現在国語科には、すべての教科学習に必要な言語活動能力を養うことが求められている。同時に、すべての教科学習に必要な言葉そのものを指導していくこともやはり国語科の重要な使命である。コーパスなどの言語資料を活用し、今後とも指導すべき語彙の提言を行っていく。

注

- 1) 漢字・語彙指導をテーマとした、全国大学国語教育学会におけるこの数年の自由研究発表の発表題目・概要は以下の通りである。
 - ・第122回筑波大会(2012年5月)「指導すべき漢字と指導に関する考察」…小・中学校の教科書や一般書籍での常用漢字出現状況の提示。
 - ・第125回広島大会(2013年10月)「中学校学年別漢字配当表の構想」…小学校の学年別漢字配当表に続く、中学校における学年別漢字配当表の構想。
 - ・第126回名古屋大会(2014年5月)「学年別漢字配当表に関する諸調査—『常用漢字表』語例の検討を中心に—」…常用漢字表語例の現代性や教育的価値についての評価。
 - ・第127回筑波大会(2014年10月)「教科学習語彙の選定と活用」…各教科の学習に必要な学習語の選定と指導の必要性の提言。
- 2) <http://sourceforge.jp/projects/unidic/>よりダウンロード可能。またUniDicの概要については、国立国語研究所コーパス開発センターHPに記されている。http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/unidic/
- 3) 光村図書『国語5』pp.100-101
- 4) 表3～表6は以下の17列で構成されている。先頭行は列名データである。以下に概略を示す。

1:通番	2:語種(語彙素)	3:全体:中学校教科書の出現総数	4~11:国語~保体…各教科の出現度数	12~17:図書~ブログ…「現代日本語書き言葉均衡コーパス」のサブコーパスの語彙レベル
------	-----------	------------------	---------------------	---

引用・参考文献

- 阪本一郎(1958)『教育基本語彙』牧書店。
- 児童言語研究会(1962)『国語教育の体系化I 言語要素指導』明治図書。
- 甲斐睦明(1984)「国語教育における語種」『日本語学』第3巻第9号, pp.55-62.
- 近藤明日子・田中牧郎(2008)「小中学校教科書の語彙」『特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班中間報告書 言語政策に役立つ、コーパスを活用した語彙表・漢字表等の作成と活用』文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班, pp.115-121.
- バトラー後藤裕子(2011)『学習言語とは何か—教科学習に必要な言語能力—』三省堂。
- 田中牧郎(2011)「語彙レベルに基づく重要語彙リストの作成—国語施策・国語教育での活用のために—」『特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班報告書 言語政策に役立つ、コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』国立国語研究所, pp.77-88.
- 田中牧郎・近藤明日子(2011)「学校・社会対照語彙表」上同, pp.69-76.
- 『教育科学 社会科教育』第48巻9号(2011.9)
- 東京学芸大学国語教育学会他(2013)『小学校 子どもが活躍する国語科学習用語』東洋館出版社。

*本稿は、第128回全国大学国語教育学会兵庫大会自由研究発表「学習語彙の選定と活用(2)和語・漢語・外来語などについて」における発表資料を大幅に加筆・修正したものです。

謝辞

本研究は科研費25381226の助成を受けたものです。